〔備考〕

- 1 印は必修科目，×印は選択必修科目。
- 2 印は再履修授業科目を示す。4年次での「有機化学演習」の再履修は前期に行えるが，単位を修得出来なかった場合に後期の「有機化学演習（再履修）」を履修することはできない。
- 3 基礎科目に配置されている「基礎化学Ⅰ・」および「情報処理演習Ⅰ」は必修とし，基礎科目の単位として認定する。

〔履修要件〕

- 1 上位年次の授業科目を履修することはできない。ただし，基礎科目，関連科目においては，2年次からこの制限を設けない。また，休学あるいは原級した年次には，上位の年次に配当された再履修科目を履修することができる。
- 2 工学部他学科開講の授業科目を履修する場合は，受講者数に制限があるので，担任者の許可が必要である。
- 3 1年間に履修登録できる単位数は，54単位を上限とし，かつ各セメスターに履修できる上限は30単位とする。（通年科目については，その科目の単位数を二分割し，各セメスターの単位数として換算する。）ただし，第二外国語，選択英語は上限外とする。また，別課程である資格教育課程の科目は卒業要件単位数に算入されないため，この制限を適用しない。
- 4 「微分積分学入門」の履修は「微分積分学Ⅰ」及び「微分積分学Ⅱ」の未修得者に限る。

〔進級要件〕

教育課程表に記載されていない資格教育課程の科目の単位は，進級要件の総単位数に含めない。

（1年次から2年次）

- 1 1年次終了までに次の単位を含めて総単位数で25単位以上を修得しなければならない。
 - （1）「FYS」2単位。
 - （2）専攻科目における必修科目および基礎科目である「基礎化学Ⅰ・」のうち8単位以上。

（2年次から3年次）

- 1 2年次終了までに次の単位を含めて総単位数で63単位以上を修得しなければならない。
 - （1）「物質生命化学基礎実験」，「物質生命化学実験・」6単位及び「科学技術英語・」のうち2単位以上を含め専攻科目の必修科目20単位以上。
 - （2）第一外国語2単位以上。

（3年次から4年次）

- 1 3年次終了までに次の単位を含めて総単位数で106単位以上を修得しなければならない。
 - （1）「物質生命化学基礎実験」，「物質生命化学実験・」及び「物質生命化学専修実験」8単位。
 - （2）「輪講Ⅰ」2単位。
 - （3）第一外国語4単位及び「科学技術英語Ⅰ」と「科学技術英語Ⅱ」4単位。

〔学外単位認定制度〕

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，進級要件単位および卒業要件単位に算入することができる。なお，横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は，各セメスターの履修制限単位数に含める。ただし，2012年度以前の入学者については，各セメスターの履修制限単位数には含めない。

- 1 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 2 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 3 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 1 4年以上在学し，学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共通科目							専攻科目							合計			
	F Y S	外国 語 科 目	教養系科目				共通 科目 合計	必修 科目	選択 必修 科目	基礎 科目	専門選択科目			関連 科目		選択 科目 合計	専攻 科目 合計	
			キャリア 形成 科目	人文 の 分野	社会 の 分野	健康 科学 の 分野					自然 の 分野	A 群	B 群					C 群
2012～2013 年度	2	4	1	4	4	4	28	46	8	14	10	6	2	52	98	126		

- 2 第一外国語としては英語を推奨する。
- 3 教養系科目から22単位以上修得するものとする。そのうち自然の分野を除きキャリア形成1単位，人文の分野4単位，社会の分野4単位を含めて18単位以上修得するものとする。なお，自然の分野では4単位を修得し，それを超えて履修しても卒業要件単位に算入しない。
- 4 第一外国語（必修）4単位以外に修得した外国語科目の単位は「関連科目」に算入できる。ただし，同一言語につき算入できる単位は2単位までとする。
- 5 教育課程表に記載されていない資格教育課程の科目の単位は，卒業要件単位数に含めない。
- 6 総合工学プログラムから物質生命化学科に所属された学生は，総合工学プログラムの卒業要件に従って履修した専攻科目の修得単位を物質生命化学科の専攻科目に置き換えることができる。

教育課程における標準年次の区切線について

標準年次が実線（ ）で区切られている場合，上位年次の授業科目は履修できません。
 標準年次が破線（.....）で区切られている場合，上位年次の授業科目は履修できますが，〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。